

幼保小における学びの接続の探究（その3） —設置主体別等からみた保育内容上の課題—

新井 美保子* 千田 隆弘**

*幼児教育講座

**名古屋文化学園保育専門学校

A Study of Learning in Relation between Kindergarten, Day Nursery and Elementary School: The Aim and Contents of the Education for Young Children

Mihoko ARAI* and Takahiro SENDA**

*Department of Early Childhood Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

**Nagoya Bunka Gakuen Academy, Nagoya 461-0011, Japan

I. 研究目的・調査概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、および小学校学習指導要領が平成20年に改訂され、それ以来、各地で幼稚園・保育所と小学校との連携が注目され実施にむけて様々に試行され始めている。本研究は、これらの連携状況の実態を把握し課題を探ると共に、保育における遊びと小学校教育における学習との連続性を探ることを目的として、愛知・岐阜・三重県内の公私立幼稚園・保育所の5歳児組の担任保育者を対象に、2008年12月に調査を実施した。これまで単純集計を主とした全体的な結果の報告¹⁾と、設置主体や小学校教諭免許状の取得の有無による、幼保小連携に対する意識の違いについて報告してきた²⁾。その中で、多くの園において幼児は、日々の遊びや生活を通して、小学校低学年等で学習する各教科内容に関わる基礎的な様々な体験をしている実態が明らかになると共に、小学校との連携に対し設置主体によってかなりの差があることがわかった。そこで、今回は、引き続き、設置主体や小学校教諭免許状の取得の有無によって、保育内容や指導の意識にどのような違いがあるのかを「学びの要素」を手がかりに探り、就学前の幼児の保育内容や学びにどのような課題があるのかを明らかにしていきたい。

「学びの要素」の項目は、小学校教育との関連性を調査する観点から、小学校学習指導要領における各教科の低学年（一部、中学年の理科及び高学年の家庭科も含む）に記載された目標及び内容をできるだけ具体

的な形で抽出し、保育場面を想定した上で作成したものである。全74項目は、【表1】に示した通りである（以後の文中では、項目番号とともに簡略した文言で表記）。

また、設置主体別の回答数は、公立幼稚園（以下、公幼と記載）111名、私立幼稚園（同 私幼）88名、公立保育所（同 公保）85名、私立保育所（同 私保）88名、合計372名である。また、小学校教諭免許状（以下、小免と記載）の取得者は33名、非取得者は339名であり、小免取得者の所属内訳は公幼16名、私幼10名、公保5名、私保2名である。

II. 結果・考察

1. 保育内容上の特徴

「学びの要素」全74項目について、「日頃の保育（遊びや生活）の中でも、幼児がこのような体験をするように取り入れたり、意識して幼児に指導・援助したりすることがあるか」を問い、「よく行っている」「行うことがある」「あまり行わない」の3段階で回答してもらった。回答はそれぞれ3～1点で集計し、取り組み状況を%で示した。全体的な回答結果については既に報告している³⁾ので、ここでは、設置主体別および小免取得別の結果について報告する。なお、内容を把握しやすくするために、74項目を、算数的項目、理科的項目（生活科を含む）、社会的項目（生活科を含む）、図画工作的項目、国語的項目、音楽的項目、体育的項目、家庭的項目、道徳的項目の9つに分類して分析した。結果は【表1】に示した通りである。

【表1】 設置主体別等の保育での取り組み

	勤務先種類				勤務先種類の各平均				小免取得		
	公幼	私幼	公保	私保	公	私	幼	保	無	有	
算数的	1. 1対1対応を意識する。(例:ひとり一個ずつ)	80.8%	78.0%	84.7%	78.0%	82.7%	78.0%	79.4%	81.4%	80.4%	79.8%
	2. 個数を数える。(例:拾った葉っぱの枚数を数える)	85.3%	87.1%	82.0%	83.0%	83.6%	85.0%	86.2%	82.5%	84.5%	83.8%
	3. 個数を比べる。(例:多い、少ない、同じ)	80.2%	79.5%	76.1%	76.5%	78.1%	78.0%	79.9%	76.3%	78.2%	78.8%
	4. 大きさを比べる。(例:大-小、長-短、広い-狭い、太い-細い、等)	76.9%	76.1%	73.7%	75.0%	75.3%	75.6%	76.5%	74.4%	75.5%	75.8%
	5. まる(円)、さんかく(三角形)、しかく(四角形)等の基本的な図形を使って遊ぶ。	64.9%	66.7%	60.8%	64.0%	62.8%	65.3%	65.8%	62.4%	64.2%	63.6%
	6. 順番を数える。	82.6%	84.5%	80.4%	81.4%	81.5%	83.0%	83.5%	80.9%	82.1%	83.8%
	7. 時計の読み方がわかる。	55.9%	64.8%	59.6%	64.4%	57.7%	64.6%	60.3%	62.0%	61.0%	59.6%
	8. 半分に分ける。	67.3%	66.3%	61.2%	65.9%	64.2%	66.1%	66.8%	63.5%	64.9%	69.7%
	9. 方向や位置を示す言葉を使う。(前後、左右、上下)	80.5%	81.1%	78.4%	79.9%	79.5%	80.5%	80.8%	79.2%	80.4%	75.8%
理科的	10. 昆虫などの小動物に関わる。	94.6%	78.0%	92.5%	83.3%	93.6%	80.7%	86.3%	87.9%	87.5%	87.9%
	11. 植物を使った遊びを楽しむ。	86.5%	65.2%	80.8%	72.0%	83.6%	68.6%	75.8%	76.4%	76.9%	74.7%
	12. 虫や動物を飼育する。	93.7%	70.1%	85.9%	72.3%	89.8%	71.2%	81.9%	79.1%	81.4%	79.8%
	13. 植物を栽培する。	92.8%	80.7%	92.9%	84.5%	92.9%	82.6%	86.7%	88.7%	87.6%	91.9%
	14. 光や日なた・日陰を意識した遊びをする。(OHPの操作も含む)	53.8%	50.8%	45.1%	47.0%	49.4%	48.9%	52.3%	46.0%	49.2%	52.5%
	15. 四季の変化に気付く。	88.3%	82.2%	80.0%	82.6%	84.1%	82.4%	85.2%	81.3%	83.4%	85.9%
	16. 土や砂、泥を使って遊ぶ。	97.3%	92.0%	95.7%	90.5%	96.5%	91.3%	94.7%	93.1%	94.3%	91.9%
	17. 水を使って遊ぶ。	93.1%	84.5%	89.8%	85.2%	91.4%	84.8%	88.8%	87.5%	88.5%	87.9%
	18. 風や空気を利用した遊びをする。	66.4%	57.6%	60.0%	60.2%	63.2%	58.9%	62.0%	60.1%	61.3%	62.6%
	19. ゴムを使って遊ぶ。	58.6%	50.4%	49.8%	46.6%	54.2%	48.5%	54.5%	48.2%	51.8%	51.5%
	20. 磁石を使って遊ぶ。	42.9%	39.8%	40.4%	40.2%	41.7%	40.0%	41.4%	40.3%	40.8%	42.4%
	21. 電気(電池、豆電球など)を使って遊ぶ。(カセットの操作は含まず)	32.7%	33.3%	31.8%	32.6%	32.2%	33.0%	33.0%	32.2%	32.8%	30.3%
	22. 重さ比べや水に物を浮かせて遊ぶ。	57.4%	46.2%	49.4%	48.1%	53.4%	47.2%	51.8%	48.8%	50.2%	55.6%
	23. 天気や天体について興味をもつ。	61.9%	59.8%	62.4%	58.3%	62.1%	59.1%	60.9%	60.3%	60.7%	60.6%
社会的	24. 家族の家庭内での役割を知ったり、家族への感謝の気持ちをもつ。	80.8%	83.7%	73.3%	77.7%	77.1%	80.7%	82.2%	75.5%	78.9%	80.8%
	25. 身近な人々や職業を意識した遊び(レストランごっこ等)をする。	82.9%	78.4%	80.8%	78.8%	81.8%	78.6%	80.6%	79.8%	80.7%	76.8%
	26. 通学路当番などの地域の人々に親しみをもつ。	58.6%	44.3%	51.0%	51.9%	54.8%	48.1%	51.4%	51.4%	51.4%	56.6%
	27. 季節や地域の行事に関わる活動をする。	82.3%	74.6%	83.1%	79.9%	82.7%	77.3%	78.5%	81.5%	79.7%	83.8%
	28. 規則正しく健康に気をつけて生活する。	88.6%	91.7%	88.6%	87.1%	88.6%	89.4%	90.1%	87.9%	89.0%	88.9%
	29. 公園等にある公共物を大切にする。	76.0%	75.8%	79.2%	77.7%	77.6%	76.7%	75.9%	78.4%	77.3%	74.7%
	30. 地域のお店や工場を見学して、生産・販売の仕事に興味を持つ。	41.1%	41.3%	43.5%	41.3%	42.3%	41.3%	41.2%	42.4%	41.8%	41.4%
	31. 身近な地域を散歩して、主な建物や交通の様子などに気付く。	72.4%	60.2%	79.2%	72.7%	75.8%	66.5%	66.3%	76.0%	71.8%	64.6%
図画的	32. 好きな色を選んで表現活動をする。	84.1%	83.3%	86.3%	83.7%	85.2%	83.5%	83.7%	85.0%	84.0%	87.9%
	33. いろいろな形(平面、立体)を作って楽しむ。	77.5%	76.9%	77.3%	76.1%	77.4%	76.5%	77.2%	76.7%	77.2%	74.7%
	34. 自然物を用いた製作をする。	85.0%	70.8%	81.6%	79.9%	83.3%	75.4%	77.9%	80.7%	80.1%	74.7%
	35. 人工の素材(紙皿やプリンカップ等)を用いた製作をする。	90.1%	88.6%	83.5%	80.3%	86.8%	84.5%	89.4%	81.9%	86.0%	84.8%
	36. 身近な材料や用具を適切に扱う。	89.5%	85.2%	85.5%	84.8%	87.5%	85.0%	87.4%	85.2%	86.5%	85.9%
	37. 自分たちの作品を楽しく見たり、色・形・面白さなど気付いたことを友達と話す。	81.7%	82.6%	76.9%	78.8%	79.3%	80.7%	82.1%	77.8%	80.0%	80.8%

	勤務先種類				勤務先種類の各平均				小免取得		
	公幼	私幼	公保	私保	公	私	幼	保	無	有	
国語的	38. 事柄を順序立てて話す。	77.5%	72.7%	73.3%	72.7%	75.4%	72.7%	75.1%	73.0%	74.3%	73.7%
	39. 声の大きさや速さ、発音などに注意して話す。	75.1%	76.5%	74.5%	75.4%	74.8%	75.9%	75.8%	74.9%	75.6%	72.7%
	40. 大事なことを聞き漏らさずに、興味をもって聞く。	85.0%	84.8%	82.4%	78.4%	83.7%	81.6%	84.9%	80.4%	82.4%	86.9%
	41. 経験したことを話したり、説明したりする。	86.5%	80.7%	84.3%	79.2%	85.4%	79.9%	83.6%	81.7%	82.6%	85.9%
	42. 仲間で話し合って、考えを一つにまとめる。	78.4%	75.0%	78.0%	72.3%	78.2%	73.7%	76.7%	75.2%	75.9%	77.8%
	43. 伝えたいことを文字や絵でかく。	73.6%	77.3%	72.9%	71.6%	73.3%	74.4%	75.4%	72.3%	73.6%	75.8%
	44. 登場人物に注目し、想像しながら絵本などを見る。	85.6%	74.6%	81.6%	76.1%	83.6%	75.4%	80.1%	78.9%	80.0%	77.8%
45. 筆記具を正しく扱う。	65.8%	80.3%	68.2%	70.8%	67.0%	75.6%	73.0%	69.5%	71.0%	70.7%	
音楽的	46. 歌詞の情景や曲の気分を感じながら歌う。	75.7%	75.8%	68.2%	70.8%	72.0%	73.3%	75.7%	69.5%	72.2%	79.8%
	47. 歌声や発音に気をつけて歌う。	73.9%	79.5%	71.0%	73.9%	72.4%	76.7%	76.7%	72.4%	74.3%	76.8%
	48. 身近な楽器に親しみ、簡単なリズムや旋律を演奏する。	79.0%	85.6%	80.4%	77.7%	79.7%	81.6%	82.3%	79.0%	80.3%	82.8%
	49. 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをする。	67.9%	63.3%	63.9%	64.8%	65.9%	64.0%	65.6%	64.3%	65.4%	62.6%
	50. 曲を聴いて想像したことや感じたことを話す。	50.5%	54.5%	44.3%	51.1%	47.4%	52.8%	52.5%	47.7%	50.4%	47.5%
体育的	51. 体を動かす楽しさや心地よさを味わう。	95.2%	92.8%	94.5%	93.6%	94.9%	93.2%	94.0%	94.0%	94.0%	94.9%
	52. ボール遊びをする。	90.1%	91.7%	94.1%	89.4%	92.1%	90.5%	90.9%	91.8%	91.5%	87.9%
	53. マットを使って運動遊びをする。	61.6%	78.4%	69.4%	71.6%	65.5%	75.0%	70.0%	70.5%	70.4%	62.6%
	54. 鉄棒を使って運動遊びをする。	79.0%	88.6%	83.1%	80.7%	81.1%	84.7%	83.8%	81.9%	83.5%	73.7%
	55. 跳び箱を使って運動遊びをする。	59.2%	77.7%	68.2%	69.3%	63.7%	73.5%	68.4%	68.8%	68.4%	63.6%
	56. 雲梯やジャングルジム、平均台等の固定遊具を使って運動遊びをする。	88.3%	86.4%	86.7%	84.5%	87.5%	85.4%	87.3%	85.6%	87.5%	76.8%
	57. きまりを守り仲よく運動したり、勝敗を受け入れたりする。	91.3%	90.9%	89.0%	89.8%	90.2%	90.3%	91.1%	89.4%	90.3%	90.9%
	58. 走る。	94.0%	94.7%	96.1%	94.3%	95.0%	94.5%	94.3%	95.2%	94.6%	96.0%
	59. 跳ぶ。	88.6%	90.5%	87.1%	89.0%	87.8%	89.8%	89.6%	88.0%	88.8%	88.9%
	60. 水遊びをする。	88.0%	87.9%	89.4%	89.0%	88.7%	88.4%	87.9%	89.2%	88.3%	90.9%
	61. 鬼遊びをする。	92.5%	91.3%	94.1%	92.4%	93.3%	91.9%	91.9%	93.3%	92.4%	93.9%
	62. 規則を工夫してゲームをする。	82.9%	79.9%	83.5%	82.6%	83.2%	81.3%	81.4%	83.1%	82.1%	83.8%
	63. 物語の主人公になりきったり、リズムに乗ったりして踊る。	79.3%	75.4%	77.6%	79.2%	78.5%	77.3%	77.3%	78.4%	78.7%	70.7%
	64. 場の安全に気を付ける。	87.1%	84.8%	87.8%	85.6%	87.5%	85.2%	86.0%	86.7%	86.5%	84.8%
家庭的	65. 食事の役割を知り、栄養素の種類や働きについて知る。	71.5%	61.0%	79.2%	73.5%	75.3%	67.2%	66.2%	76.4%	71.3%	70.7%
	66. 調理に関心をもつ。	65.8%	59.5%	73.7%	69.3%	69.7%	64.4%	62.6%	71.5%	67.4%	62.6%
	67. 衣服の働きがわかる。	63.4%	63.3%	62.7%	66.7%	63.1%	65.0%	63.3%	64.7%	64.3%	60.6%
	68. 整理・整頓や掃除の仕方がわかる。	83.5%	84.1%	83.9%	79.9%	83.7%	82.0%	83.8%	81.9%	82.6%	85.9%
道徳的	69. 自分がやらなければならない当番活動等を、しっかりと行う。	92.5%	92.4%	94.1%	92.4%	93.3%	92.4%	92.5%	93.3%	92.7%	93.9%
	70. よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。	88.3%	87.9%	87.5%	85.6%	87.9%	86.7%	88.1%	86.5%	87.4%	86.9%
	71. うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。	87.4%	88.6%	85.9%	84.1%	86.6%	86.4%	88.0%	85.0%	86.5%	86.9%
	72. 気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作などを心掛ける。	91.9%	94.7%	91.8%	89.8%	91.8%	92.2%	93.3%	90.8%	91.6%	96.0%
	73. 友達と仲よくし、助け合う。	91.6%	95.1%	92.9%	90.5%	92.3%	92.8%	93.3%	91.7%	92.0%	97.0%
	74. 年少者などに対し、温かい心で接し親切にする。	88.3%	95.5%	91.8%	91.3%	90.0%	93.4%	91.9%	91.5%	91.5%	90.9%

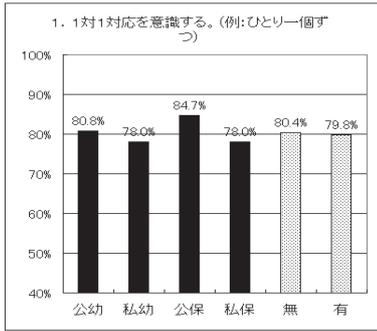


図1

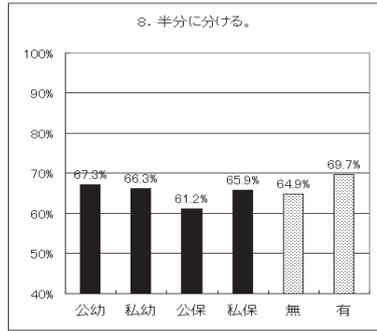


図2

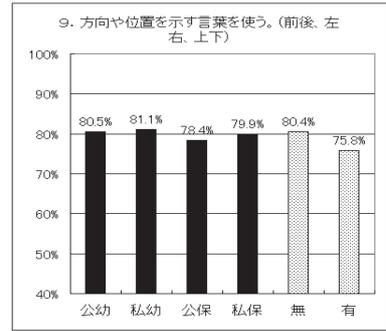


図3

(1) 算数的項目

幼稚園と保育所を比較（以下、「幼保別の比較」と記述）すると、9項目ともにほとんど差はないものの、幼稚園の方が7項目で若干高くなっており、やや幼稚園の方の意識が高いように思われる。公立園と私立園の比較（以下、「公私立別の比較」と記述）でも同様に差がない中、「1. 1対1対応」は公立が4.7ポイント、「7. 時計の読み」では私立が6.9ポイント高くなっている。

さらに、公幼・私幼・公保・私保別（以下、「設置主体別」と記述）で比較すると、私幼が「2. 個数を数える」「5. 基本的な図形」「6. 順番を数える」「9. 方向や位置」などの項目で他より若干高く、全般的に意識的に取り組んでいる様子がうかがえる。一方、公保は「1. 1対1対応」【図1】が他と比べて3.9~6.7ポイント高いものの、他の7項目で他よりもやや低くなっており、全体として意識があまり高くないように思われる。公幼は「8. 半分に分ける」【図2】が他より1.0~6.1ポイント高くなっていた。

なお、小免の有無による差は全体的にほとんどみられないものの、「8. 半分に分ける」で小免有が4.8ポイント高く、反対に「9. 方向や位置」【図3】では小免無が4.6ポイント高かった。

今回の9項目の回答は60~85%程度と全体的に高い。今回の調査では、これらの項目について、日頃どのような方法で保育に取り入れたり指導・援助したりしているのかは不明であるが、生活や遊びの様々な場面において、子どもはこれらの内容と出会っていると考える。年長児に対しどの程度の内容が適切であるのかを検討すると共に、生活や遊びという直接的・具体的な活動の中でこれらの学びに出会えるように援助する保育者の意識も求められるのではないだろうか。

(2) 理科的項目

14項目中、幼保別では動植物に関する3項目（10、11、13）において保育所が若干高いものの、他の11項目は幼稚園が高く、科学的な内容において幼稚園の方の意識が高いことがわかる。

また、公私立別では13項目（10~20、22、23）において公立が高く、特に動植物に関する4項目（10~13）

では、私立に比べて公立の方が10.3~18.6ポイントも高いという結果が出た。公立の方がより動植物等の自然に直接触れる経験が得られることがわかる。その他の項目においても、「17. 水を使って遊ぶ」で6.6ポイント、「16. 土・砂・泥」で5.2ポイント、「22. 重さ比べ」で6.2ポイント、「19. ゴム」で5.7ポイント、「18. 風・空気」で4.3ポイントなど、公立が総合的に高くなっている。

さらに設置主体別で比較すると、他と比べて公幼の高さが際立っている。例えば、私幼と比較した場合、「12. 飼育」【図6】の23.6ポイント差を始めとして「11. 植物を使った遊び」【図5】21.3ポイント差など、動植物関連の項目で差が大きい他、「22. 重さ比べ」【図7】11.2ポイント、「18. 風・空気」8.8ポイント、「17. 水を使って遊ぶ」8.6ポイント、「19. ゴム」8.2ポイントなどの差が見られる。このように、公幼においては他と比較して科学的活動も多く取り入れられていることが分かる【図4】。

なお、小免の有無による違いは、「22. 重さ比べ」で小免有の方が5.4ポイント高くなっている他は、ほとんど差が見られなかった。

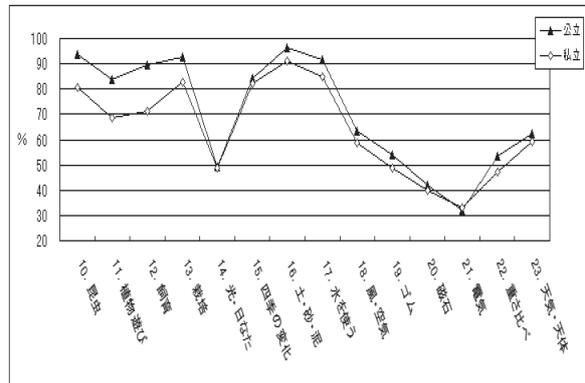


図4

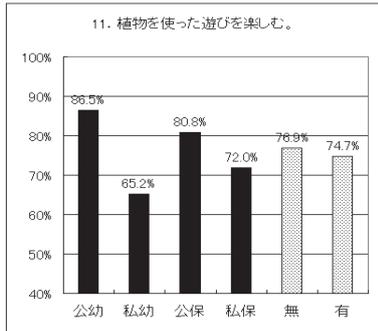


図5

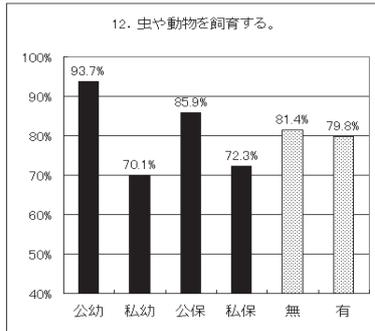


図6

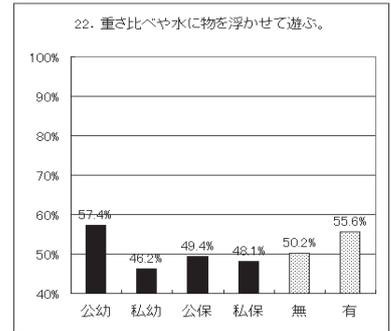


図7

（3）社会的項目

幼保別では、幼稚園は「24. 家族の役割・感謝」で6.7ポイント高く、保育所は「31. 地域を散歩」【図9】で9.7ポイント高くなっている他は、ほとんど差がみられない。保育所の在園児の家庭が多様化・複雑化している状況を考えれば、項目24は保育において取り上げ方に配慮が必要な内容と言えるのかもしれない。

公私立別では、公立の方が「31. 地域を散歩」で9.3ポイント、「26. 地域の人に親しむ」【図8】で6.7ポイント、「27. 季節や地域の行事」で5.4ポイント高いなど、地域に関する項目で公立が高くなっている他は、差が見られない。特定の学区を持たない私立との違いが現れているといえる。

設置主体別でも同様の違いがあり、例えば公幼は私幼より、項目26で14.3ポイント高く、項目31で12.2ポイント高い。また、項目27で7.7ポイント高くなっている。私幼は通園時にもバスを利用するなど、地域と直接触れ合う機会が少なくなりがちである状況を考えると、保育における意識的な活動の工夫が求められるのではないだろうか。

（4）図画工作的項目

幼保別では、「35. 人工素材で製作」【図11】で7.5ポイント、「37. 見る・話す」で4.3ポイント幼稚園が高いものの、ほとんど差は見られない。公私立別でも、「34. 自然物で製作」【図10】が公立の方で7.9ポイント高い他は、違いがほとんどみられない。

設置主体別では、項目34について私幼が他より9.1～14.2ポイントも低い。前述の理科的項目と合わせて考えると、私立幼稚園においては自然物とのかかわりが難しい状況がうかがえる。

（5）国語的項目

幼保別では、「40. 大事なことを聞く」で4.5ポイント幼稚園が高かったが、他はほとんど差がみられない。公私立別では、公立の方が「44. 登場人物に注目」【図12】で8.2ポイント、「41. 説明する」で5.5ポイント高い他は、あまり差は見られない。

設置主体別では、私幼は「43. 文字や絵でかく」【45.

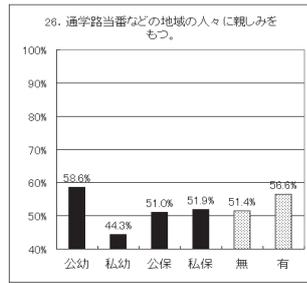


図8

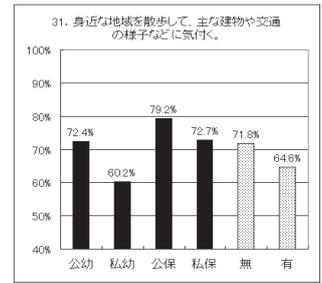


図9

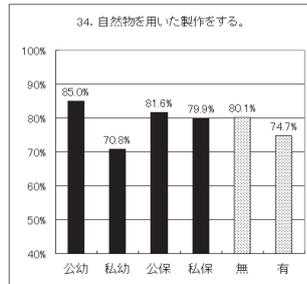


図10

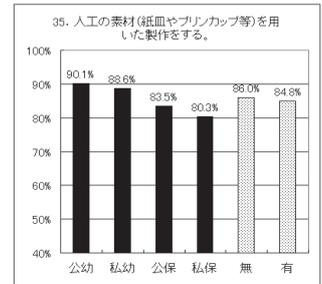


図11

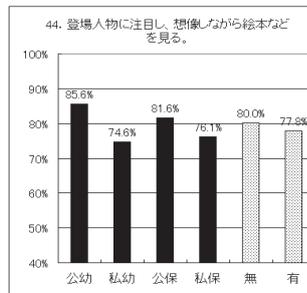


図12

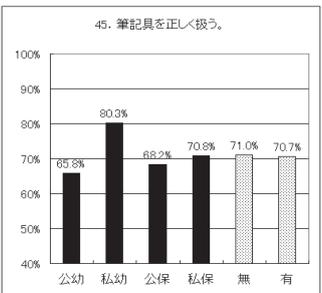


図13

筆記具を正しく扱う」【図13】が他よりも高く、特に項目45は他との差が14.5～9.5ポイントあり、80.3%に達している。文字を書く活動が多く園で取り入れられているのではないかと推測される。一方、項目45が65.8%だった公幼は、「38. 順序立てて話す」「40. 興味を持って聞く」「41. 説明する」「42. 話し合い」「44. 登場人物に注目」の5項目において他よりも高く、話す・聞くことに中心をおいた指導がなされている様子うかがえる。また、私保は8項目中半数で他と比較してやや低く、これらの取り組みに対し意識がやや少ないように思われる。なお、小免取得の有無による差はほとんどみられなかった。

(6) 音楽的項目

幼保別では5項目とも幼稚園が高いものの、保育所との差は1.3~6.2ポイントとあまり大きくはない。最大の差が見られた項目は「46. 歌詞の情景」【図14】である。公私立別では全体的に私立が高いものの、その差は大きくない。最大の差が見られた項目は「50. 曲を聴いて話す」で5.4ポイント差である。

設置主体別では全体的に私幼が高く、公幼と比較した場合でも「47. 歌声や発音」で5.6ポイント、「48. 楽器演奏」【図15】で6.6ポイントの差がみられた。ただ、「49. 音遊び」では公幼が4.6ポイント高くなっており、両者の意識の違いが感じられる。

小免の有無による差は、小免有の方が「46. 歌詞の情景」で7.6ポイント高くなるなど、歌に関する項目で意識して指導している様子がうかがえる。

(7) 体育的項目

14項目について、幼保別ではほとんど差が見られない。公私立別では、私立の方が「53. マット」【図16】で9.5ポイント、「55. 跳び箱」【図17】で9.8ポイントと、この2種目に限り特に差が大きく、「54. 鉄棒」で3.6ポイント高くなっていたものを除く他の11項目では、あまり差がみられなかった。

設置主体別では、上記の3項目（53,54,55）において私幼が高く公幼が低い結果となっている。その差は項目55が18.5ポイント、項目53が16.8ポイント、項目54が9.6ポイントと大きく、私幼と公幼との取り組みに大きな違いがあることがわかる。保育所はこれらの

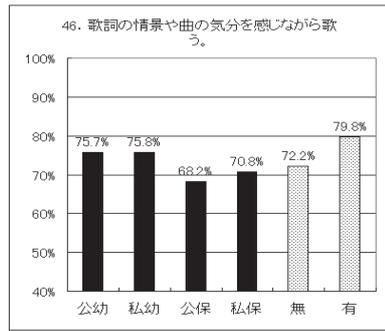


図14

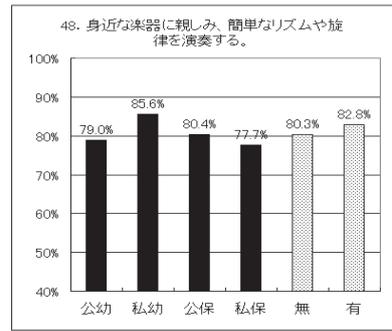


図15

中間に位置している。一方、公保は「52. ボール遊び」「61. 鬼遊び」「62. 規則を工夫」「64. 場の安全」などで他よりも高く、遊びを通して体を動かしている様子がわかる。

小免の有無による差はあまりないが、特に上記の3項目（53,54,55）で小免無の方が4.8~9.8ポイント高い他、「56. 雲梯・ジャングルジム・平均台」【図18】で10.7ポイント、「63. 踊る」で8.0ポイント高いなど、器具を使用する運動を中心に小免無の方が高い傾向がみられた。

(8) 家庭的項目

幼保別では、4項目中の「65. 食事の役割」【図19】「66. 調理」【図20】において保育所が高く、公私立別ではこれらの2項目は公立で高くなっていった。設置主体別に公保と私幼を比較すると、項目65で18.2ポイント、項目66で14.2ポイントの差がみられ、公保が高くなっている。自園給食を基本とし児童福祉施設としての役割を負う保育所として、食育に力を入れている様子が見える。

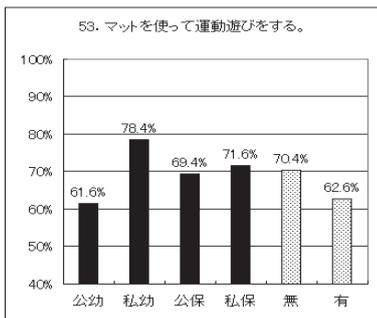


図16

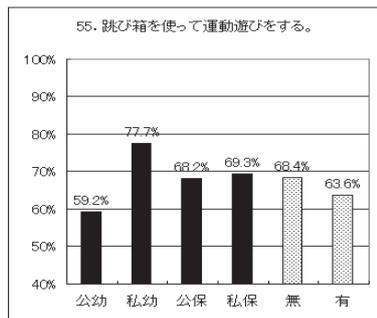


図17

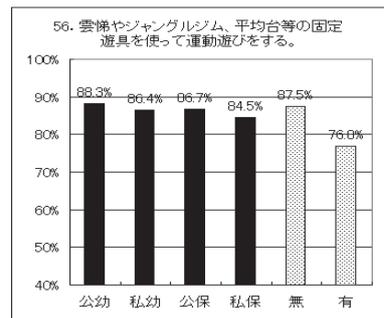


図18

（9）道徳的項目

幼保別ではあまり差がみられないものの、全体的に幼稚園のポイントがやや高い。公私立別でも差はみられない。設置主体別でもほとんど差がみられず「73. 助け合い」【図21】を始め、全体に高いポイントであるが、「74. 年少者などに対し、温かい心で接し親切にする」【図22】は、公幼が私幼より7.2ポイント低い。その理由はわからないが、公幼の中には年長児組のみで開設されている園もあり、結果として他よりも低くなっているとも考えられる。

2. 具体的遊びにみられる特徴

次に、4つの具体的な遊び（①砂場での活動、②お店屋さんごっこ（商品作りも含む）、③劇遊び（発表会も含む）、④ドッジボール）を挙げ、いずれも複数の幼児たちで活動している場合を前提として、そこにどのような学びの要素が含まれるのかを、前述の74項目から5つ以内で答えてもらった。それぞれの上位10項目に挙げられた学びの要素について、設置主体別の捉え方の違いを示したものが、【図23～26】である。

（1）砂場での遊び

【図23】に示した通り、回答全体としては「16. 土・砂・泥」や「17. 水を使って遊ぶ」に集中しているが、その中でも項目16は公保が92.9%と高く、私幼84.4%、私保85.2%と比較して差が見られる。項目17では公幼が73.0%で最も高く、私幼56.7%、私保55.7%と比較して約17%の差が生じている。砂場での遊びにおいて、水を使用するかどうか、また、使用する場合の量や活動内容が、このような違いとなって現れていると考えられる。砂場での水の使用の有無によって、そこでの活動内容はかなり異なると予想され、保育者が砂場で

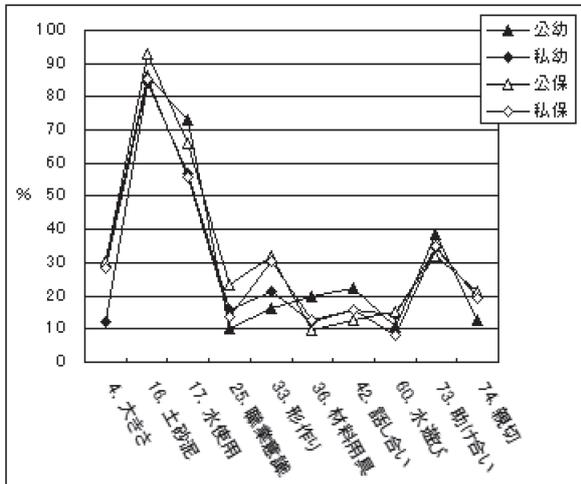


図23 「砂場での遊び」の内容

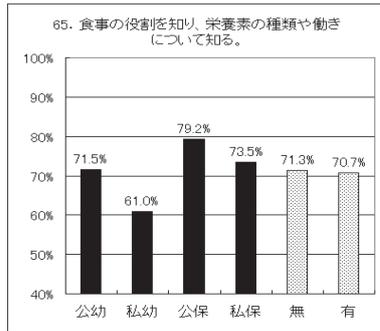


図19

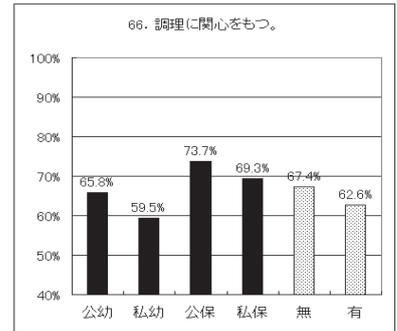


図20

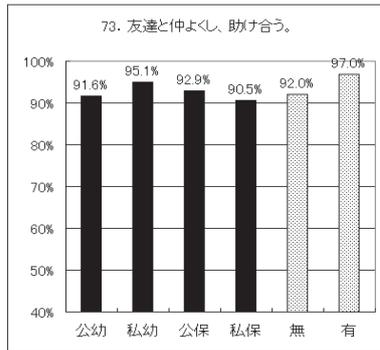


図21

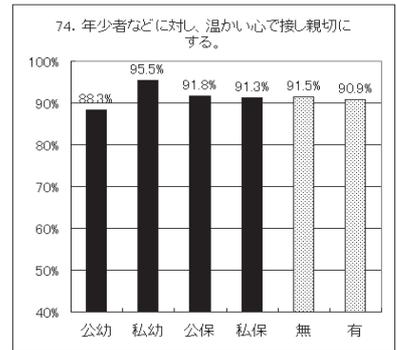


図22

の遊びにおいて幼児の学びとして何を期待するのか、意識に違いがあると考えられる。

公私立保育所で他と比較して高くなったのは、「33. 形作り」（公保31.8%、私保30.7%）であり、私幼21.1%、公幼16.2%との開きが10～14ポイントになっている。また、「4. 大きさ比べ」では、私幼が12.2%であるのに対し他は約30%あり、ここにも活動目的・内容の違いが現れている。反対に、他と比較して私幼でやや高かった項目は「11. 植物を使った遊び」「25. 職業を意識した遊び」「35. 人工の素材を用いた製作」などであり、砂場において主としてごっこ遊び的な活動が展開されているのではないかと推測される。

公幼は「33. 形作り」や「25. 職業を意識した遊び」が最低である反面、「42. 話し合い」や「73. 助け合い」「41. 説明する」などにおいて最も高くなっていた。複数の幼児が関わる活動として、自分の意見を話したり相手の意見を聞いたりする中で、アイデアを出し合い、調整しながら1つの目的に向かって協力して活動を進めていく力を育てたいとする意識が感じられる。

（2）お店屋さんごっこ（商品作りも含む）

【図24】に示した通り、回答全体としては「25. 職業を意識した遊び」や「35. 人工素材を用いた製作」に集中しているが、このいずれにおいても、私幼は他と比較して若干低い。特に項目25では、最高の公保68.2%に対して私幼は53.3%であり、約15ポイントの開きがある。その他、「33. 形作り」「34. 自然物で製作」でも他より10～6ポイント程度低い。むしろ「66. 調理」「69. 当番活動」「72. あいさつ・言葉遣い」などにおいて他よりやや高くなっており、商品を製作す

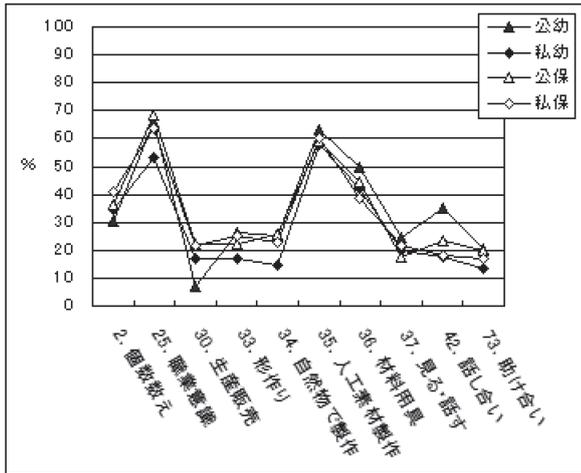


図24 「お店屋さんごっこ」の内容

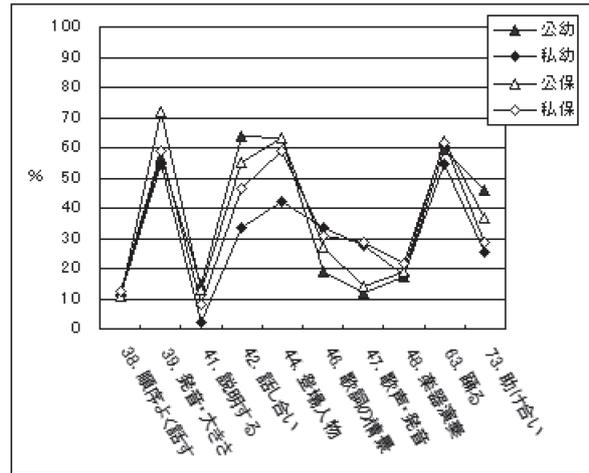


図25 「劇遊び」の内容

ることよりも、接客場面が活動の中心になっていると考えられる。公保は項目25の他に「30. 生産・販売の仕事に興味を持つ」でも高めであり、お店という仕事への理解をねらいとしている様子がうかがえる。公幼は、反対に項目30が特に低く、むしろ項目34、35、36などの製作に関わる項目が高い。私保は「2. 個数を数える」において他より高くなっている。

このように、1つの遊びでも、商品作りから、接客、数の理解、生産・販売、話し合いなど、多様な要素が含まれており、設置主体によって保育の重点が異なっていることがわかる。

(3) 劇遊び (発表会も含む)

【図25】に示した通り、全体的には「39. 発音・声の大きさ」と「63. 踊る」が高くなっているが、その他も含めてばらつきが大きい。

公幼は「42. 話し合い」が64.0%で私幼よりも30.7ポイントも高い。同様に「41. 説明する」は14.4%だが私幼とは12.2ポイントの差、「73. 助け合い」は45.9%で20.3ポイントの差となっており、これらの結果からは、劇遊びの中で登場人物の心情などを考えながら、自分たちで話し合い、作り上げている様子がうかがえる。

それに対し、私幼では「46. 歌詞の情景や曲の気分を感じながら歌う」が33.3%で公幼より14.4ポイント高く、同様に「47. 歌声・発音に気をつけて歌う」も27.8%で14.4ポイントの差となっていた。これらから、私幼では劇だけではなく歌うことも重視している様子がうかがえる。

公保は「39. 発音・声の大きさ」が71.8%で他と12ポイント以上の差、項目44でも公幼と同様に63.5%と高く、登場人物の心情などを考えながら台詞を工夫し言うことに重点が置かれていることがわかる。

私保では、項目47(28.4%)や「48. 楽器演奏」21.6%、「63. 踊る」61.4%など、歌・演奏・踊りの項目で他より高めになっていた。

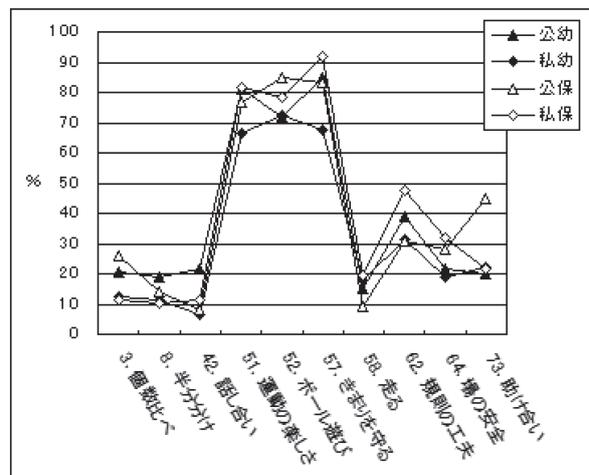


図26 「ドッジボール」の内容

このように劇遊びにおいて、保育のねらいが設置主体によってかなり違っていることがわかる。

(4) ドッジボール

【図26】に示した通り、全体としては項目51、52、57の体育的な3項目に集中しているものの、設置主体による差もみられる。

公幼は他の遊びと同様、「42. 話し合い」が21.6%と高く、他と10.2~14.9ポイントの差がある。また、私保と公幼共通の傾向として「51. 運動の楽しさ」(私保81.8%、公幼81.1%)、「57. きまりを守る」(同 92.0%、84.7%)、「62. 規則の工夫」(同 47.7%、38.7%)なども高い。

一方、公保は「52. ボール遊び」84.7%、「73. 助け合い」44.7%、「個数比べ」25.9%などで高く、ドッジボールのゲーム性を意識した内容になっている。私幼はどちらかといえば公保に近い傾向がみられるが、他と比較しても全体的に数値が低い。

このように、他の遊び同様、設置主体によって保育のねらいに差が見られる。ゲームに直接的に必要な技術やルールを理解を主にするのか、ゲームを通してそこで生じた問題を話し合いで解決・工夫したり運動に対する心情を育てたりしていくのか、という視点であ

る。活動には両者とも必要であり、その両者を学ぶことで活動の魅力も高まるのではないかと考える。

Ⅲ. 考察

今回の調査結果から、今後の課題をまとめてみたい。

第1に、年長児の興味・関心や意欲、知的好奇心に応えられるような環境が構成されているかどうかという点である。理科的項目で見られたように、設置主体別でかなりの差が生じていることが明らかになった。現在の領域「環境」では特に自然とのかかわりを重視しており、公立園はそれに則った保育を実施していることがわかるが、私立園の中にはその点の取り組みも十分とはいえない状況であることがわかった。さらに、公立園を含め全体として、風・空気、ゴム、光・日なた・日陰、磁石、電気、天気・天体などを活用した保育はあまり実践されていない状況が明らかになった。年長児として何とどこまで出会わせるのかは検討が必要なところであろうが、これらの科学的素材がもつ不思議さや面白さは、幼児にとっても魅力的なものではないだろうか。例えば、「光・日なた・日陰」に関連する活動内容として、冬季に園内のどこで氷ができ、どのように解けていくのか、なぜ、できたりできなかったりするの、また、夏季の木陰の涼しさや秋季の影の長さなど、意識すれば生活の様々なところで出会い、保育に取り入れることができる。単なる知識獲得のためではなく、幼児の興味・関心や知的好奇心を広げ生活を豊かにするために、果たして現在の環境構成や援助の仕方で十分であるのか、検討していく姿勢が求められる。

第2に、第1に関連して、年長児としてどこまでの体験が適切であるのかという点を検討することが必要であろう。幼児は、身の回りの様々な物・人・事象などに出会い、直接的・具体的な体験を通して理解を深め、取り組む面白さに意欲・自信を高め、活動範囲を徐々に広げていく。幼児のその心情や発達過程に叶う内容が、幼児の学びでもあると考える。その点において、今回「学びの要素」として作成した項目の中には、幼児の心情や発達過程に適さないものもあるかもしれない。例えば、「20. 磁石」や「21. 電気」、「30. 地域のお店や工場を見学して、生産・販売の仕事に興味を持つ」など、取り組みへの数値が低かった項目についての検討が必要である。これらは、幼児の心情や発達過程に適していないのか、保育活動への活かし方の問題なのか、保育者自身の関心の低さによるものなのか、保育活動に取り入れること自体が現代の社会状況として物理的に難しいのか等、背景を探りながら検討を深める必要があるだろう。また、項目ごとの体験の深まりについても考えたい。

第3に、幼稚園・保育所別、公私立別において、項目によって差が大きく見られたことである。「学びの

要素」だけでなく、遊びの内容の捉え方に違いがあることがわかった。例えば、今回調査で取り上げた「砂場での活動」「お店屋さんごっこ」「劇遊び」「ドッジボール」4種類の遊びにおいて、公立幼稚園は「42. 仲間と話し合って、考えを一つにまとめる」回答が、他園と比較してすべて高くなっていた。つまり、遊びの種類は様々であろうとも、そこに年長児として育てたいねらい（あるいは、年長児として学ぶ内容）が、一貫して含まれているということである。1つの目的を達成するためにみんなで取り組む活動は、「協同的な遊び」として現行の幼稚園教育要領や保育所保育指針で新たに導入された部分であり、小学校以降の学習を意識して導入された経緯もある。そのような方針を理解し、また年長児の成長・発達過程を把握しながら、このような指導が意識的に行われていると考えられる。私立幼稚園や保育所にはそれぞれの保育方針や役割があり、公立幼稚園のように実施しにくい面があると考えられるが、年長児の成長・発達を保障するとはどうすることなのかを、それぞれの園の保育方針と照らし合わせながら検討を進めていくことが求められるだろう。一方、公立幼稚園においては、私立幼稚園に比べて音楽的項目（「47. 歌声や発音」「48. 楽器演奏」など）や、体育的項目（「53. マット」「55. 跳び箱」「54. 鉄棒」など）、国語的項目（「43. 文字や絵でかく」「45. 筆記具を正しく扱う」）など、限られた項目ではあるが低くなっていた。私立幼稚園や保育所と同様に、公立幼稚園においても、年長児の成長・発達を保障する観点からの検討が求められる。

今回の調査を通して、日本の保育施設では遊びや生活を通して小学校以降の学習の基盤となる様々な体験や学びがなされている状況が明らかになった。一方で、「遊んでさえいけばよい」という安易な取り組みではその内容にも大きな幅があり、幼児の成長・発達を十分に保障できているか疑問が残るところでもある。発達過程をどのように捉えてその遊びや環境を取り入れるのか、その遊びで何をねらいとするのか等、長期的な視点も含めて、目的や理由を意識した援助・指導が保育者には求められている。また、その点を小学校教諭や保護者に対して説明し、共に連携・協力して子どもの育ちを保障していくことが必要であろう。

注・引用文献

- 1) 新井美保子・千田隆弘「幼保小における学びの接続の探究（その1）—遊びにおける学びの要素に着目して—」愛知教育大学研究報告（教育科学編）第59輯 2010.3 pp.1-9
- 2) 千田隆弘・新井美保子「幼保小における学びの接続の探究（その2）—公私立別と小免有無別の連携への取り組みから—」愛知教育大学幼児教育講座 幼児教育研究第15号 2010.5 pp.33-40
- 3) 前掲1) 参照。

（2010年9月17日受理）